

経済の活性化と 交流基盤の整備

1 千葉の輝く魅力づくり

① 光り輝く千葉の魅力を全国・海外に発信

目標

本県の様々な魅力を積極的に国内外に発信し、選ばれる千葉県を目指します。

現状と課題

本県は、温暖な気候と広い県土と豊かな自然に恵まれ、それぞれの地域で多彩な文化や特産品などが生まれ、育まれてきました。

本県は「食の宝庫」であり、県産農林水産物は、産出額等が全国上位の品目が数多くあります。大消費地に隣接し、県内の人口も多く、多様な観光資源を有するなど、高いポテンシャルを有しています。

また、首都圏に位置し、我が国最大の国際空港である成田国際空港や東京湾アクアラインといった人・物の交流を支えるインフラや、幕張メッセや東京ディズニーリゾートといった大規模な集客施設も数多くあります。さらに、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の東金・木更津間の開通により、交通利便も一層向上しています。

これまで、本県の持つ様々な魅力を積極的に発信し、知名度の向上に努めてきましたが、「光り輝く活気にあふれた千葉県」を実現していくため、今後も、国内外に向けて、より一層積極的にPRし、認知度、信頼度、好感度を高め、「行きたい地域」「暮らしたい・働きたい地域」「買いたい産品の生産地」として、千葉県が選んでもらえるようにしていくことが必要です。

取組の基本方向

知事のトップセールスやテレビ、ラジオ、新聞など各種メディアを通じたPR活動を戦略的に展開し、本県の魅力を国内外に発信します。特に、海外での知名度向上のため、海外への直接、継続的な発信を強化します。

また、観光地や文化、産業などの「千葉ブランド」を充実させるとともに、本県のイメージアップと県産品の販売促進、ファンづくりや定住の促進に向けて、観光や優れた企業立地環境、県産農林水産物の魅力など千葉県の魅力を積極的に発信します。

主な取組

1 トップセールスなどによる戦略的な魅力発信の推進

県のイメージアップ、観光客の増加や県産農林水産物の販路拡大等を図るため、トップセールス*やテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの在京メディアを通じて県内外に向けて戦略的に千葉の魅力を発信し、千葉県への知名度を高めます。

- トップセールスによる情報発信の推進
- 在京メディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌)等を活用した広報の推進
- 県広報紙、インターネットを利用した県政情報や魅力情報等の発信
- マスコットキャラクター「チーバくん」を活用したPR

2 海外への魅力発信

トップセールスや各種媒体を活用し、海外に向けて千葉の魅力を積極的に発信することで、千葉県への知名度を高めます。

- 海外でのトップセールス
- プレスリリースなどによる海外への直接、継続的な発信
- 外国人観光客の誘致促進のための発信
- 県内在住等の外国人を活用した海外への千葉県情報の発信



メディア向けPR



ちば県民だより

チーバくんの 光り輝く県づくりコラム

知事トップセールス

県では知事自らが直接PRを行い、千葉県を売り込むトップセールスを進めています。主に観光客の誘致や県産農林水産物のプロモーションを行っています。国内外に千葉の魅力を発信することによって、その模様がテレビ、ラジオ、新聞などに取り上げられ、さらに効果を発揮します。

海外では平成23年度に台湾、平成24年度にタイ王国、平成25年度にはマレーシアで知事のトップセールスを実施しました。



3 千葉の魅力の更なる発見・向上と効果的な発信

新たな魅力を発見し磨き上げ、様々な場面で千葉県が選ばれる工夫をした発信を進めます。

県産農林水産物や観光、優れた企業立地環境などの魅力を発信することにより、イメージアップと消費拡大を図ります。また、インターネットを活用した「ちば文化交流ボックス*」や「デジタルミュージアム*」などにより、市町村と連携を図りながら千葉の文化的魅力を発信するとともに、千葉県の歴史や自然などに関わる展覧会の開催や「千葉・県民芸術祭」をはじめとした、様々な公演などの開催を通じて、千葉県の文化的イメージを高めます。

- 県産農林水産物のプロモーションの実施
- 観光キャンペーンの実施と旅行会社・メディア等への積極的なプロモーションの展開
- 戦略的な企業誘致のための発信
- 「ちば文化」の魅力を発信する文化事業の充実

千葉県産農林水産物のプロモーション



千葉ブランド水産物のPRポスター



県産食肉のPRのロゴマーク



旨さが多彩な県産食肉



知事によるトップセールス



量販店等における千葉県フェア

4 移住・定住促進に向けた魅力発信

人口減少が進む地域では、地域の魅力に共感する人々に移り住んでもらうことも地域の活性化にとって重要です。このため、市町村等が行う移住・定住促進のための取組を支援するとともに、市町村や関係団体等との連携を図りながら、地域の魅力や交通、医療、教育などの移住関連情報を幅広く発信していきます。

- 移住定住の促進に取り組む地域への支援
- 市町村・関係団体等との連携による移住・定住の促進



② 国際交流の推進と海外取引・外国人誘客の促進

目標

国際交流・協力の活発化、県内企業の海外取引や県産農林水産物輸出の促進、観光・MICE*誘致などの展開や、外国人県民にも暮らしやすい多文化共生社会づくりを進め、国際社会とともに発展する県づくりを推進します。

現状と課題

人・物・資本・情報などあらゆる分野でグローバル化が拡大、進行しています。また、近年のアジア諸国の急速な成長等により、アジアの一員である我が国には時代に合った新たな国際関係の構築が求められています。

本県は、成田国際空港(以下「成田空港」という。)や千葉、成田、木更津、浦安といった国際会議観光都市*群があり、また、将来性のある企業、高品質な農林水産物など、海外にも通用する強みを有しています。こうした本県の多様な魅力を生かし、グローバル化の進展や近隣諸国の状況と連動し、幅広い分野での交流や展開を図っていくことが必要です。

また、本県には多くの外国人が在住し、異なる文化・制度や言語に適応しながら暮らし・働き・学び続けています。こうした人々との相互理解を進め、「外国人県民が地域社会の一員として共に生きていく多文化共生社会」を実現していくことが求められています。

取組の基本方向

グローバル化が進む中においては、本県の多様な魅力に世界的な視点から磨きをかけるとともに、「千葉県」の知名度向上やブランド化を図るため、分野を超えた事業手法を用いたり、情報媒体をミックスして効果的に事業を展開していくことが重要です。このため、市町村、民間団体、企業などの多様な主体との連携の下、知事のトップセールスを含めた海外でのプロモーション活動を行います。

さらに、多文化共生社会づくりに向けて、社会情勢の変化等にも対応しつつ、県民の国際理解と外国人県民の社会参加のための環境づくり、外国人県民の視点・ニーズを踏まえた情報提供や支援を行い、外国人県民にも暮らしやすい県づくりを進めます。

主な取組

1 国際交流、国際協力の活発化

本県の姉妹州であるアメリカのウィスコンシン州や、友好関係にあるドイツのデュッセルドルフ市と、経済、学術・教育、文化・スポーツ分野での国際交流を進めます。

また、ラオスで実施している水環境分野での支援などの各種国際協力を引き続き進めるなど、高い成長を続け、我が国との結び付きが一層強まっているアジア諸国との国際協力を進めます。

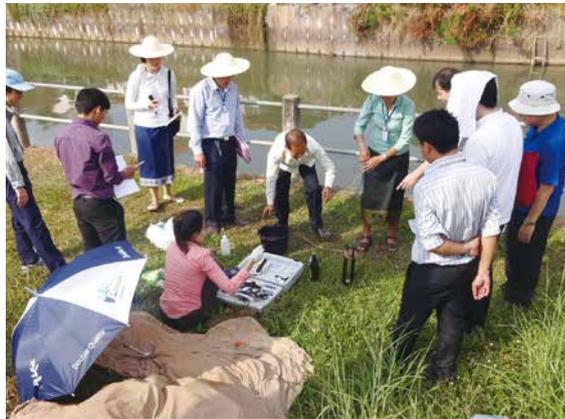
また、わが国の将来を担う若い世代の国際理解・体験の機会を充実させ、異文化を理解し、国際社会で主体的に行動できる人材の育成を目指します。

さらに、海外に対し本県についての正確な情報や多様な魅力等を知ってもらえるよう情報の発信に努めます。

- 姉妹州・友好都市との国際交流
- アジア諸国における国際協力
- 多様な文化を認め合う国際社会の担い手の育成(再掲)
- 海外に向けた本県の魅力等の情報発信



姉妹州であるアメリカ・ウィスコンシン州の庁舎



ラオス・ヴィエンチャン都への水環境保全の国際協力



災害時外国人サポーター養成講座での外国人避難所体験



ブルガリア・ソフィア市での千葉県少年少女オーケストラの公演

2 外国人県民にも暮らしやすい県づくり

外国人県民が、社会の一員として暮らし働くことのできる多文化共生社会*の実現を目指し、医療・福祉、教育、防災、防犯・交通安全、住宅など生活に密着した分野での多言語での情報提供・相談対応等を充実させます。

また、外国人県民及びその子どもたちが日本語や日本での生活に必要な知識・習慣を身に付けることができるよう、地域社会、学校での受入体制の整備を行うとともに、地域社会の一員として活躍できるよう社会参加・交流を促進します。

- 外国人県民向けの多言語による情報提供
- 外国人県民の地域社会への参加促進と支援体制整備
- 外国人児童生徒等の受入体制の整備(再掲)
- 外国人集住地域総合対策の推進

3 県内企業の海外取引と県産農林水産物の輸出の促進

中小企業にとって海外取引は、国内取引に比べリスクが高いことや、取引先情報やノウハウ等の蓄積が困難であるなどの理由から、挑戦が難しい状況にあるため、海外市場を視野に入れた中小企業の販路開拓などを支援します。

特に、ジェットロ千葉*などと連携して貿易投資相談を実施し、窓口相談から専門家派遣、展示会等への出展支援など海外ビジネスに対する集中支援を行っていきます。

また、世界的な日本食ブームやアジア諸国における富裕層の増加など農林水産物の輸出の機会が拡大している中、海外における「千葉フェア」の開催や、海外展示会、商談会への出展等、千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会と連携して支援することにより、産地と海外市場のマッチングを促進します。

- 海外販路拡大セミナー等の開催
- 貿易・投資相談の実施
- 国際展開に係る実務支援の実施
- 海外に向けた情報発信と商談機会の創出
- 輸出に取り組む団体への支援

チーバくんの 光り輝く県づくりコラム

多文化共生社会

多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化的な違いを認め合い、尊重しあいながら、同じ地域社会の構成員として共に生きていくことです。

本県には、10万人を超える多くの外国人県民の方が暮らしています。医療、就労、教育、防災など生活を営むうえで支援や、地域社会への参加を進め、誰もが安心して豊かに暮らせる社会を目指していきたいと考えます。



タイにおける農林水産物の千葉県フェア開催

4 海外プロモーション等による観光客の誘致促進

本県の地域経済活性化や国際相互理解の増進を図るため、経済発展の著しい東アジア・東南アジアを重点市場として、国・地域ごとのマーケットを踏まえた効果的・効率的なプロモーション活動を展開することにより、外国人観光客の積極的な誘致に取り組みます。

また、外国人観光客が県内各地を安全かつ快適に楽しむことができるよう受入体制の整備を促進することにより、外国人観光客の利便性・満足度を向上させ、リピーターの増加を図ります。

- 東アジア・東南アジアを重点市場とした観光プロモーションの実施(再掲)
- 成田空港・羽田空港を中心とした広域連携による誘客促進(再掲)
- 訪日外国人の受入体制の整備(再掲)

5 MICEの誘致促進と幕張メッセの活用

本県における国際会議や展示会などのMICE産業振興、地域経済の活性化及び開催都市の国際的ブランドイメージの構築を図るため、公益財団法人ちば国際コンベンションビューローを通じてMICE誘致・支援事業を展開するとともに、県と市町村の連携による国際会議への補助制度の活用や、MICE関係事業者との連携を強化し、アフターMICEの魅力向上についても研究を進めながら、本県のMICE競争力をより一層高めていきます。

アジア有数のコンベンション施設である幕張メッセについては、さらに競争力のある施設とするための施設強化を図り、また、株式会社幕張メッセと連携して、国際的な産業展示会や、音楽・文化系など新規分野のイベント等の誘致を積極的に進めます。あわせて、千葉市との連携を深めて、幕張新都心の持つ魅力や個性を高めていきます。

- 県市町村、関連事業者等との連携によるMICEの誘致
- 公益財団法人ちば国際コンベンションビューローが行うMICE誘致・支援事業の実施
- 国際会議開催補助金やトップセールスによる効果的な誘致活動の推進
- 幕張メッセの施設強化とメッセを活用した展示会・見本市の積極的誘致
- 元気な幕張新都心をつくる県市連絡会議の開催

③ 成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化

目標

成田国際空港(以下「成田空港」という。)の年間発着回数30万回の早期実現を目指します。
成田空港と県内外への交通アクセスを更に充実させます。

現状と課題

成田空港は、世界各地とバランスのとれた航空ネットワークを持つ東アジア有数の国際線基幹空港として、本県はもとより、首都圏及び我が国における経済発展の核となっています。平成22年10月には、国際線基幹空港としての機能を更に充実するため、国・県・空港周辺9市町(成田市・富里市・香取市・山武市・栄町・神崎町・多古町・芝山町・横芝光町)及び成田国際空港株式会社(以下「NAA」という。)において、年間発着枠30万回化の合意がされました。

これを契機として、国際線・国内線の拡充やLCC(格安航空会社)の新規就航が相次ぐなど、成田空港を取り巻く動きが活発化し、発着枠拡大の効果が確実に現れてきています。

こうした発着枠拡大の効果と、空港への鉄道アクセスの向上や首都圏中央連絡自動車道(以下「圏央道」という。)等の道路網の整備の進展により、成田空港を中心とした広域的な人・物・財の流れの創出という新たな可能性が生まれてきています。

また、我が国の国際競争力を強化するためには、成田・羽田両空港を一体的に活用することによって、首都圏における国際航空機能の最大化を図ることが重要です。

今後は、平成25年夏ダイヤから実施されたオープンスカイ*も踏まえ、発着回数30万回の早期実現を目指すとともに、成田空港と都心・東京国際空港(以下「羽田空港」という。)間や県内アクセスの更なる改善を図り、これにより生じる空港の新たな可能性を生かし、時機を失することなく、官民が連携して観光や産業振興など、本県全体の経済活性化につながるための取組を進めることが必要です。

取組の基本方向

成田空港については、発着回数30万回の実現に向け、国・空港周辺9市町及びNAAと連携して、周辺地域の共生策を一層推進するとともに、地域経済の活性化などにより周辺地域との共栄を目指します。

また、成田空港と都心・羽田空港間や、県内の交通アクセスの更なる改善を図り、成田空港が国際線基幹空港としての機能を一層効果的に発揮できるよう、各種施策を展開します。

そして、本県の飛躍拠点である成田空港の高まるポテンシャルを全县の経済活性化につなげる取組を進めます。

主な取組

1 成田空港を活用した県経済の活性化

成田空港では、年間発着枠30万回化の合意を契機として、国際線、国内線の拡充、LCC（格安航空会社）の新規就航が相次いでおり、また、平成25年夏ダイヤからはオープンスカイも実施されるなど、空港のポテンシャルはますます高まっています。こうした状況を踏まえ、県内経済団体や民間企業、関係自治体等と連携して、年間発着回数30万回の早期実現を促進するとともに、空港の活力を県内の観光や産業の振興など本県全体の経済活性化につなげるための取組を進めます。

- 年間発着回数30万回の実現に向けた協力
- 成田空港活用協議会^{**}への参画による県内観光・産業の振興
- 戦略的な企業誘致(再掲)
- 東アジア・東南アジアを重点市場とした観光プロモーションの実施(再掲)
- 成田空港・羽田空港を中心とした広域連携による誘客促進(再掲)



成田国際空港(提供：成田国際空港株式会社)



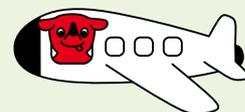
LCC航空会社(提供：成田国際空港株式会社)

チーバくんの 光り輝く県づくりコラム

成田空港活用協議会

成田空港活用協議会は、LCC（格安航空会社）の新規就航が相次ぐなど、活発化する成田空港の動きを、県内の観光や産業の振興につなげるために、官民が一体となって平成25年7月に設立されました。

協議会では、民間のアイデアを取り入れながらユニークな事業を展開しようとしており、県も協議会と連携して、成田空港の活力を県勢の発展につなげていきます。



成田空港活用協議会設立総会

2 成田空港周辺地域の環境対策・地域共生策の推進

空港の発着回数拡大に伴う地域住民への騒音障害など、マイナスの影響を解消するため、国・空港周辺市町・NAA及び公益財団法人成田空港周辺地域共生財団*と連携を図りつつ、周辺地域と成田空港の持続的な共生を目指し、環境対策・地域共生策を着実に実施します。

- 住宅防音工事などへの取組
- 公益財団法人成田空港周辺地域共生財団によるきめ細かな騒音対策への協力

3 成田空港周辺地域の振興

空港機能を活用した地域振興などを図るため、成田財特法*に基づく「成田国際空港周辺地域整備計画」事業や成田国際物流複合基地(南側二期)の整備を推進するとともに、周辺地域と成田空港との共栄を目指し、周辺市町、県、及び空港会社等で構成する地域振興連絡協議会による活動に取り組みます。

- 「成田国際空港周辺地域整備計画」事業の推進
- 成田国際物流複合基地(南側二期)の整備の推進
- 地域振興連絡協議会を通じた新規就航歓迎行事等の開催

4 成田空港への交通アクセスの強化

成田スカイアクセス等を活用した「都心—空港・郊外直結線」について、国の検討に協力します。また、成田・羽田両空港間において同一空港並みの利便性を実現させるため、リニアモーターカー構想を国策として検討するよう、国に働きかけます。

また、県内外と成田空港のスムーズな人・物の流れの強化、さらには全国や県内各地との交流や連携を目指し、圏央道、東京外かく環状道路(外環道)、北千葉道路など高規格幹線道路等の整備を促進します。

- 高規格幹線道路等の整備促進(再掲)
- 国道及び県道のバイパス・現道拡幅の整備推進(再掲)



空港ロビー(提供：成田国際空港株式会社)

④ 東京湾アクアラインと圏央道が拓く魅力ある地域づくり

目標

東京湾アクアライン(以下「アクアライン」という。)と首都圏中央連絡自動車道(以下「圏央道」という。)を有効に活用することにより、本県が持っている多くの宝・ポテンシャルを開花させるとともに、更に磨きをかけ、県内経済の活性化や地域振興を進めていきます。

現状と課題

アクアラインは、本県の課題である「半島性」を解消するとともに、圏央道と一体となって首都圏の骨格を形成し、広域的な交流・連携を図るための大変重要な高速道路です。

アクアラインについて、県では、国の支援も得て、平日休日を問わず24時間、普通車の通行料金を800円とするなど、全車種(ETC車限定)を対象とした大幅な料金引下げの社会実験を行っています。(平成25年度中)

その結果、交通量は実験前に比べて8割増加し、観光の振興、企業立地の促進、物流の効率化が図られるなど、千葉県をはじめとする首都圏経済の活性化に大きく貢献しています。

平成25年4月には、圏央道の東金から木更津間が開通し、中房総や外房・九十九里地域へのアクセスが飛躍的に向上することから、アクアラインの料金引下げとの相乗効果により、多大な効果が現れるものと期待されています。

引き続き、アクアラインの恒久的な料金引下げと1日も早い県内の圏央道の全線開通、さらには4車線化整備が図られるよう努めていく必要があります。

圏央道の全線開通により、アクアラインと一体となって、成田国際空港(成田空港)や東京国際空港(羽田空港)をはじめ、首都圏の陸・海・空の拠点を結ぶ基幹ネットワークが形成されることから、その整備効果を生かして、本県の更なる発展につながるような取組が求められています。

取組の基本方向

市町村や民間団体等と連携し、観光地の魅力向上、観光消費を増大させる仕掛けづくり、産業や歴史文化、景観など地域の資源を活用した地域づくりに取り組みます。

また、一段と高まる本県の立地優位性を生かして、新たな工業団地の整備など立地環境を向上させ、積極的な企業誘致と産業振興を図ります。

さらに、アクアライン着岸地の土地区画整理事業*や圏央道沿線地域や周辺観光地へのアクセス道路の整備などを進めます。

主な取組

1 アクアライン・圏央道を活用した戦略的な観光振興

首都圏から南房総、九十九里方面をはじめとした県内各地へ観光客の誘致を図るため、海ほたるパーキングエリア、三井アウトレットパーク木更津内の千葉県観光情報館「チーバくんプラザ」などの拠点を活用した戦略的・効果的な情報発信により、千葉県観光の魅力を広くプロモーションしていきます。

また、観光資源を相互に結びつけることで、個々の資源の魅力を相乗させ、増強する効果が生まれることから、圏央道の供用開始による波及効果を最大限に生かし、観光振興や交流人口の拡大を図るため、市町村域を越えた自治体同士の広域的な連携を促進します。

さらに、本県を訪れた観光客に「また訪れたい」と感じてもらえる魅力ある観光地づくりを進めるため、トイレや駐車場といった観光関連施設の整備を促進するとともに、より良いおもてなしをするために、観光産業に携わる人たちのスキルアップやホスピタリティの醸成に取り組みます。

- アクアライン・圏央道を活用した観光の情報発信
- ICT 活用による効果的な情報発信の推進（再掲）
- 観光関連施設の整備（再掲）
- 地域が主体となった観光資源の磨き上げ（再掲）
- 新たな観光需要の開拓（再掲）
- 観光産業に携わる質の高い人材の確保・育成（再掲）

チーバくんの 光り輝く県づくりコラム

アクアライン・圏央道による 交通アクセスの向上

圏央道の整備が進んだため、アクアラインを経由することにより、千葉と東京・神奈川などとのアクセスが飛躍的に向上しました。

これにより、県内に大きな工場やショッピングセンターなどが新しくできたり、国内外からたくさんのお客さんが来るようになってきています。

千葉県では、このチャンスを更なる経済の活性化につなげるため、産業や観光の振興などにいっそう力を入れていきます。



チーバくんプラザ(千葉県観光情報館)

2 アクアライン・圏央道を活用した地域間交流の促進と地域活性化

アクアライン・圏央道の地域経済への波及効果を確実なものとするため、沿線の多様な歴史文化、自然豊かな農山漁村、新鮮な県産農林水産物などの地域資源を活用することで、都市住民と地域住民の交流を活発にするとともに、市町村・関係企業等と連携した二地域居住*や移住・定住への取組を支援します。

また、地域活性化に向け、連携して土産物等の新商品の開発や販路拡大に取り組む農林漁業・中小企業者や、生産・加工・販売等に一体的に取り組む農業者など、新たな観光需要の開拓に意欲的に取り組む事業者の取組を支援します。

- 地域交流の促進
- 歴史文化・自然の活用
- 直売所や大規模集客施設と連携した県産農林水産物の販売戦略の展開
- 農林水産物を活用した6次産業化・農商工連携の推進（再掲）

3 アクアライン・圏央道沿線地域への企業誘致と産業の振興

成田・羽田の両空港や首都圏各地への交通アクセスの向上など一段と高まる本県の立地優位性を踏まえて、立地企業への助成を行うとともに、茂原にいはる・袖ヶ浦椎の森工業団地や民間の工業団地の整備促進、工業用水の確保、金田西特定土地区画整理事業の推進、人材の確保・育成の支援など、企業ニーズに即した立地環境の整備を図るとともに、積極的な企業訪問やトップセールスを実施し、関係市町村と連携して、企業の誘致に取り組めます。

また、かずさアカデミアパークについては、平成24年3月に策定した「かずさアカデミアパーク事業の新たな展開」に基づき、おおむね10年を目途に立地を完了させるよう、企業誘致に取り組めます。

さらに、地域の資源を活用した地元企業による新商品の開発や販路開拓、対岸地域の事業者との取引機会の創出・拡大を促進し、地域産業の振興を図ります。

- 戦略的な企業誘致（再掲）
- 企業の立地環境の整備
- 工業用水の安定供給（再掲）
- かずさアカデミアパーク及び周辺地域への企業誘致
- 地域資源を活用した新商品・新サービスの開発等の支援
- 首都圏立地企業との取引機会の創出・拡大

4 アクアライン着岸地・圏央道沿線地域の整備推進

地域の交流と連携の強化や、物流の効率化などを図るため、アクアラインや圏央道などの高速道路に接続する地域高規格道路や国道・県道の整備を進めるとともに、道路網の骨格をなす圏央道の県内区間の早期全線開通が図られるよう国などに働きかけ、必要な協力をしていきます。

また、アクアラインや高規格幹線道路等（圏央道・東関東自動車道館山線・千葉東金道路）と、主要な観光地を結ぶ幹線道路により、観光エリアへのアクセスを強化するとともに、高規格幹線道路を活用した高速バスネットワークの形成についても、関係機関と連携して進めます。

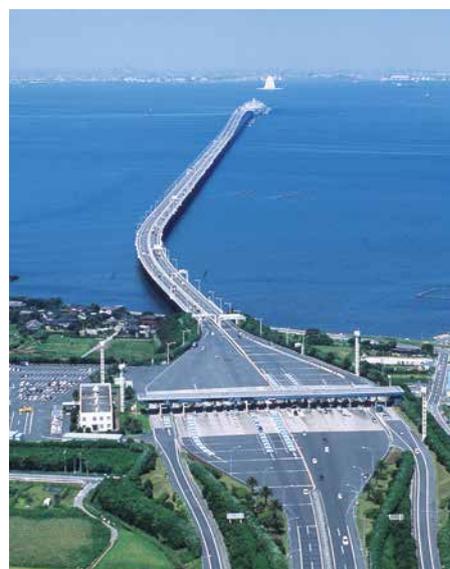
さらに、圏央道、アクアライン等の広域道路ネットワークとつながる木更津港についても、機能強化を図ります。

そして、アクアラインの着岸地である金田地区では、ポテンシャルを生かした土地利用の促進が図られるよう、土地区画整理事業により都市計画道路をはじめとする公共施設などの基盤整備を推進します。

- 高規格幹線道路等の整備促進（再掲）
- 国道及び県道のバイパス・現道拡幅の整備推進（再掲）
- 金田西特定土地区画整理事業の推進（再掲）
- 木更津港の港湾整備促進
- 観光地へのアクセスを強化する道路の整備推進（再掲）



海ほたる



東京湾アクアライン



圏央道(東金～木更津)開通



圏央道(茂原北インターチェンジ)

5 千葉の「宝」を生かした観光立県の推進

目標

本県の持つ魅力を十分に生かした魅力的な観光地づくりを推進するとともに、効果的なプロモーション活動により観光入込客*・宿泊客をはじめとする交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化を目指します。

現状と課題

本県は首都圏に位置しながら、温暖な気候と「花」や「海」をはじめとする豊富な自然に恵まれており、新鮮な海の幸・山の幸の「食」や数多くの歴史的・文化的資源を有するなど、多様な観光のポテンシャルを秘めています。

一方で、本県観光を取り巻く環境は、本格的な少子高齢化・人口減少社会の到来による国内観光市場の縮小や地域間競争の激化、東日本大震災等の影響による観光入込客・宿泊客の減少など、非常に厳しい状況にあります。

こうした中、本県の持つ「宝」を十分に生かし、観光による交流人口の拡大により地域経済の活性化を図っていくためには、多様化する観光客のニーズや目的に対応し、人々が魅力を感じる千葉県ならではの観光振興を図っていく必要があります。



屏風ヶ浦(銚子市)



本土寺(松戸市)



佐倉チューリップ祭り



千葉港沿岸風景

取組の基本方向

何度でも訪れたい魅力ある観光地づくり*に向けて、本県観光の大半を占める首都圏からの観光客や急増するシニア層を意識した、観光インフラの整備や観光資源の磨き上げを促進するとともに、競争力のある観光産業の創出のため、観光客のニーズに対応した付加価値の高いサービスの提供を図っていきます。

また、本県観光客の8割近くは自家用車を利用していることから、東京湾アクアライン(以下「アクアライン」という。)料金引下げ社会実験・首都圏中央連絡自動車道(以下「圏央道」という。)延伸等の機会を活用した戦略的・効果的な観光プロモーションを展開するとともに、日本の表玄関である成田国際空港(以下「成田空港」という。)の発着枠30万回化に向けた訪日外国人の増加を踏まえて本県への積極的な誘客を図っていきます。

主な取組

1 何度でも訪れたい魅力ある観光地づくり

観光を地域経済の活性化に確実に結びつけるため、観光関連施設の整備を進めるとともに、地域が主体となった観光資源の磨き上げや効果的な連携により、催しや企画などの観光プログラムの充実、地域資源を生かした参加体験型観光やグリーン・ブルーツーリズムをはじめとするニューツーリズム*の開発などを促進し、観光客のリピーター化を進めるとともに、地域特性を生かした広域的な周遊観光による滞在の長時間化など、宿泊型観光の推進を図ります。

また、観光ニーズの多様化に対応して、サイクルツーリズム*をはじめとする新たな魅力の創出にも積極的に取り組んでいくとともに、シニア層を中心に誰もが気兼ねなく快適・安心に県内を旅行できるようユニバーサルツーリズム*を促進していきます。

- 観光関連施設の整備
- 地域が主体となった観光資源の磨き上げ
- 新たな観光需要の開拓
- ユニバーサルツーリズムの促進

チーバくんの 光り輝く県づくりコラム

魅力ある観光地づくり

「花」「海」などの豊かな自然、新鮮な海の幸、山の幸の「食」に、「温泉」。千葉には「お宝」がいっぱいあります。みんなの知らない「お宝」がまだまだあるかもしれません。

千葉県では、国内外からの観光客にもっともっと千葉のファンになってもらうため、「お宝」を一生懸命PRして、魅力ある観光地づくりに取り組んでいきます。



ちばトイレ美化おもてなし宣言シール

2 競争力のある観光産業の創出

観光は旅行業、宿泊業だけでなく、小売業（土産）、運輸業、飲食業、農林水産業、商工業など極めて裾野の広い産業であり、地域の経済活性化や就業・雇用機会の創出などに大きな影響を与えます。

そこで、多様化する観光客のニーズに対応した観光関係者における付加価値の高いサービスの提供を図っていくため、観光客の動向等を把握する観光マーケティング・リサーチを強化するとともに、観光産業に携わる人達のスキルアップやホスピタリティの醸成などに取り組みます。

また、中小企業等を中心とした観光事業者の取組を支援し経営基盤の強化を図るとともに、県産品の新商品・新サービスの開発や積極的なPRによるブランド化・販路拡大を推進していきます。

- 観光マーケティング・リサーチの強化
- 観光産業に携わる質の高い人材の確保・育成
- 県産品のブランド化・販路拡大の推進
- 観光事業者の経営基盤の強化

3 戦略的な国内観光プロモーションの展開

「花」「海」「食」「温泉」「祭り」といった本県の有する多様な観光の魅力を、総合的・戦略的に県内を含む首都圏を中心に全国へ向けて発信するとともに、旅行動向を左右し、新たな観光ニーズの形成に大きな影響力を持つメディアや旅行会社などに対して、積極的なプロモーションを展開します。

また、本県観光に多数訪れているファミリー層に加え、時間的・経済的に余裕のあるアクティブシニア層をターゲットとして取り込んでいくとともに、近年、旅行形態が団体旅行から個人旅行にシフトしてきていることに伴い、個人旅行客に対応したICT活用による効果的な情報発信を推進していきます。

さらに、観光入込客が少ない平日に宿泊を伴い実施され、再度本県を来訪するきっかけづくりとしても期待できる修学旅行の誘致を図っていきます。

- 季節やテーマに応じた観光キャンペーンの実施
- 旅行会社・メディア等への積極的なプロモーションの展開
- アクアライン・圏央道を活用した観光の情報発信（再掲）
- ICT活用による効果的な情報発信の推進
- 修学旅行の誘致
- 直売所や大規模集客施設と連携した県産農林水産物の販売戦略の展開（再掲）

4 国際的観光地としての地位の確立

日本の表玄関である成田空港を擁する本県の優位性を生かし、経済発展の著しい東アジア・東南アジアを重点市場として、国やJNTO^{*}、他都道府県、県内市町村等と連携しながら、各国・地域のマーケットに応じた誘客を図るほか、来訪者が県内各地を安全かつ快適に楽しむことができるよう、受入体制の整備促進に取り組みます。

また、地域経済の活性化に貢献する経済波及効果の高い国際会議・イベントなどの積極的な誘致を図ります。

- 訪日外国人の受入体制の整備
- 東アジア・東南アジアを重点市場とした観光プロモーションの実施
- 成田空港・羽田空港を中心とした広域連携による誘客促進
- 県市町村、関連事業者等との連携によるMICEの誘致(再掲)
- 公益財団法人ちば国際コンベンションビューローが行うMICE誘致・支援事業の実施(再掲)
- 国際会議開催補助金やトップセールスによる効果的な誘致活動の推進(再掲)



勝浦ビッグひな祭り



ツール・ド・ちば



夏の観光キャンペーン



外国人モニターツアー